

第一章 人生の心得

01	感謝の気持ちと謙虚な心が人生の道を切り開く	16
02	誰に対しても分け隔てなく心から丁寧に接する	18
03	食事を残したときの料理人への気遣い	20
04	仕事こそ幸福を導いてくれる	22
05	人生と経営は賭け事ではない	24
06	人間は誰もが偉大な存在である	26
07	人間観から紡ぎ出された純金の言葉	28
08	常に問題意識を持って見よ、聞け	30
09	自分のものと思えば感謝の気持ちが湧く	32
10	青春とは心の若さである	34
11	加藤清正は30代で熊本城をつくった	36

12	若いときの苦労は買ってもせよ	38
13	ほかに頼らず自分で責任を取る覚悟を	40
14	批判に対して弁明も反論もしない	42
15	叱ってくれる人、注意してくれる人を歓迎する	44
16	日々反省を繰り返して自己観照の力を培おう	46

第二章 成功の心得

17	能力は60点で十分、大事なものは熱意である	50
18	「素直な心」が成功も成長も招く	52
19	熱意・誠実・素直さこそ成功へのトライアングル	54
20	感謝の心が成功の出发点	56
21	人は誰でも、もともと成功するようになってい	58

22	小さい努力の積み重ねが大きな成功につながる	60
23	人の営みは日に新たななり、決して現状に甘んずるな	
24	多くの知恵を集めれば、より成功につながる	64
25	部下にも尋ねて衆知を集めよ	66
26	凡人だから、人に任せ、人に尋ねる経営で成功	68
27	行き詰まっても行き詰まらないと考える	70
28	人間、運が90%だが、残りの10%が大切	72
29	まず汗を出せ、汗の中から知恵を出せ	74
30	将来、必ず重役になれる方法	76
31	訴えが実るまで訴え続ける	78
32	「社員稼業」の心意気で主体的に働こう	80

第二章 商売の心得

33	「勝てば官軍」の商売はいずれ失敗する	84
34	生産者の使命はいい物を安くたくさんつくること	
35	この世の貧をなくし、楽土を建設したい	88
36	商売は真剣勝負である	90
37	雨が降れば傘を差すように、当たり前のことをせよ	92
38	過当競争は罪悪、共存共栄こそ繁栄の道	94
39	秘密をつくらないガラス張り経営をせよ	96
40	経営理念なき会社は発展しない	98
41	経営にもダムが必要である	100
42	借金を減らし内部留保を増やす方法	102
43	何ごとも限度を超えてはならない	104

44	ファンをつくる商売人は成功する	106
45	サービスとは人に喜びを与えること	108
46	常に「商人の心」を忘れてはならない	110
47	商いの心得10カ条	112
48	不況克服の心得10カ条	114

第四章 リーダーの心得

49	女は愛嬌、リーダーも愛嬌	118
50	社員一人ひとりに声をかけよ	120
51	「生きた情報」を集める方法	122
52	叱るときは私心なく命がけで叱る	124
53	叱られるのがうまい人、下手な人	126

54	責任者には三つの責任がある	128
55	経営の原点は人にあり	130
56	仕事の「なぜ」を丁寧に、根気よく説明せよ	132
57	秀吉は信長の長所を、光秀は信長の欠点を見た	134
58	部下の能力を最大限に発揮させているか	136
59	使にくい部下を使う度量があるか	138

第五章 経営者の心得

60	人間観こそ経営における第一ボタン	142
61	経営は数字の分析や理論などではない	144
62	社員より先に憂い、社員より後に楽しむ	146
63	寝ても覚めても経営のことを考えよ	148

64	自らの徳性を高める努力を	150
65	自分より優れた人を使えるか	152
66	社長の力は3割、7割は社員の力なり	154
67	経営者は慎ましくあれ	156
68	権限は委譲しても、権威は委譲するなかれ	158
69	優秀な人を集めたら優秀な会社になるのか	160
70	悩みや愚痴を話せる「聞き役」を持って	162
71	社員全員に方針を明確に示せ	164
72	「上下関係」ではなく「横の関係」に徹せよ	166
73	赤字だからリストラは無能・無策の証明なり	168
74	秘書役、参謀役、補佐役の三本柱の側近を持って	170
75	「目に見えない要因」を見落とすな	172
76	経営の失敗はわれ一人の責任なり	174

77	報告者たちを同席させ、情報共有に努めよ	176
78	どんなクレームも最終的に引き受けよ	178
79	後継者は謙虚であれ	180
80	経営者の資質とは、結局は人柄に尽きる	182

参考文献

184